

諏訪の景気動向

平成17年5月

(平成17年4月末D・I調査)

平成17年5月16日

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成17年4月末）

平成17年4月末アンケート調査および企業訪問ヒヤリング調査からまとめた諏訪地方の景況

当金庫が諏訪地方 209社のご協力を得て行った4月末の景気動向調査からみた地域の景況は、「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは 1.0ポイントで前回調査時に引き続き足踏み状況となっている。

製造業の業況は「好転」15.3%、「悪化」19.7%で業況判断DIは 4.5ポイントで3期連続してマイナスで地域製造業は引き続き弱含みの足踏み状況となっている。

「3ヶ月前」と比べての受注状況DIは 9.7ポイントとなっている。「3ヶ月前」と比べ「不変」とする企業が 51.3%と一番多いものの電機機械や精密機械などの下請け企業に受注が減少した企業がみられる。「3ヶ月後」の受注予測は増加とみる企業が 20.0%と前回調査時の 15.2%を上回っており回復期待感が窺える。自動車関連や工作機械など設備関連企業の生産状況は高水準となっている。ヒヤリング調査からはデジタル家電業界の競争激化から一部に生産を中止する企業も見られるが、一方受注回復は3ヶ月前の予測より早まるとの見方の企業もみられ業種や企業により見方が分かれている。「3ヶ月後」の受注予測DIは 3.9ポイントでデジタル機器の下請け企業に受注回復を予想する企業が多くみられる。精密機械や一般機械の下請け企業に受注が減少すると見る企業が多い。

商業は寒暖の差が大きかったものの好天が続き中旬以降気温が上がり春から初夏を思わせる気候となったことや「母の日」セールもあり婦人衣料品や園芸資材など動きがみられパソコンや薄型TVは順調な動きをみせたが食料品は商品単価が下がるなど客単価が伸びず低迷が続いている。商業全体の「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは御柱の「前年同月比」では 18.8ポイントとなっているが「3ヶ月前」と比べ 12.5ポイントと好転企業が多くなっている。

観光・サービス業は観光シーズンを迎え天候にも恵まれ宿泊客が増加したところも多く「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは 35.0ポイントとなっており大型連休前半は入り込み客も多く地域の行楽地は賑わいを見せた。宿泊客は増減区々となっているが全体の宿泊客DIは 25.0ポイントとなっている。「3ヶ月後」についても期待感が大きくなっている。

建設業は年度の切り替え時期のため公共工事の発注が少なく新設住宅など建築工事には幾分動きがみられるが受注環境に変化がみられず厳しい状況が続いている。

収益性は製造業は資材の値上がり、受注単価の引き下げ、非製造業では商業、観光・サービス業に収益改善の動きが見られたものの建設業は厳しい受注環境が続いており製造業、非製造業ともに収益改善は見られない。

雇用状況は3月の諏訪地方の有効求人倍率は諏訪職安、岡谷職安合わせて1.25倍で一昨年10月から18ヶ月連続して1倍を上回っている。

新規求人は諏訪、岡谷職安合わせて1,596人で前月より22人減少した。新規求職者数は997人で前月より158人増加した。

業況判断DIの推移（3ヶ月前と比較して）

今回調査（4月末）の回答全社209社の「3ヶ月前」と比べての業況は横這いとする企業が62.7%で業況判断DIは1.0ポイントで前期に続き横這い状況が続いている。

製造業の業況判断DIは4.5ポイントで3期連続してマイナスとなっており弱含みの足踏み状態が続いている。受注状況は、51.3%の企業は「不変」としているがデジタル家電関連や精密機械に受注が減少した企業が増え輸送用機械などに受注増加企業が多いものの製造業全体では受注が減少した企業が29.2%となっており、製造業の受注状況DIは9.7ポイントで受注状況は業種により区々となっている。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断DIは9.6ポイントで商業、サービス業など第3次産業は天候にも恵まれ春の観光シーズンを迎えたことから業況が回復したところが多くみられる。建設業は公共事業が年度替りで発注案件が少ないなど受注環境は好転せずに厳しい状況が続いている。

産業別業況表

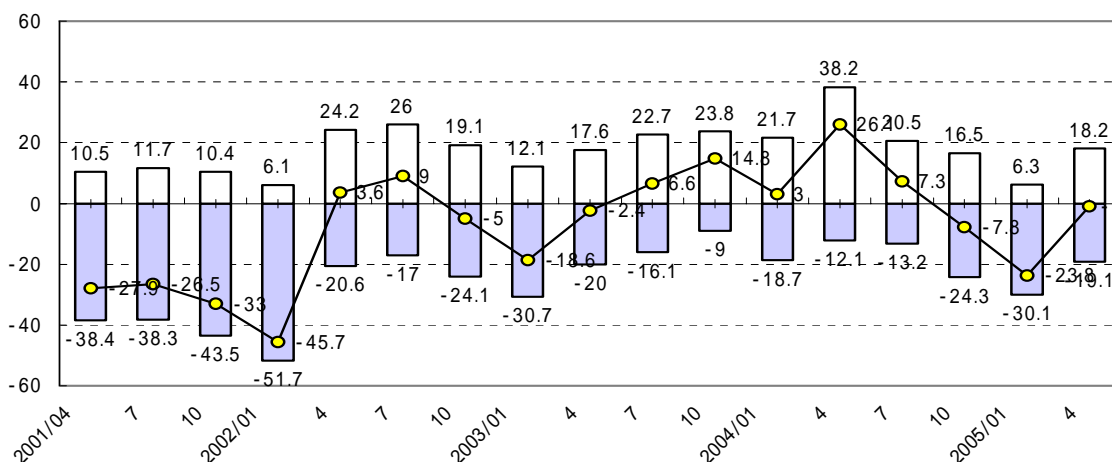
表 - 1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
全体	209	18.2	62.7	19.1	-1.0	209	19.6	46.4	34.0	-14.4	208	19.7	65.9	14.4	5.3
製造業	157	15.3	65.0	19.7	-4.5	157	19.7	49.0	31.2	-11.5	157	15.3	70.1	14.6	0.6
非製造業	52	26.9	55.8	17.3	9.6	52	19.2	38.5	42.3	-23.1	51	33.3	52.9	13.7	19.6
商業(大型店)	16	31.3	50.0	18.8	12.5	16	25.0	31.3	43.8	-18.8	16	31.3	56.3	12.5	18.8
建設業	16	6.3	62.5	31.3	-25.0	16	12.5	37.5	50.0	-37.5	16	6.3	68.8	25.0	-18.8
観光・サービス	20	40.0	55.0	5.0	35.0	20	20.0	45.0	35.0	-15.0	19	57.9	36.8	5.3	52.6

自社業況判断DIの推移(「3ヶ月前」と比べて)

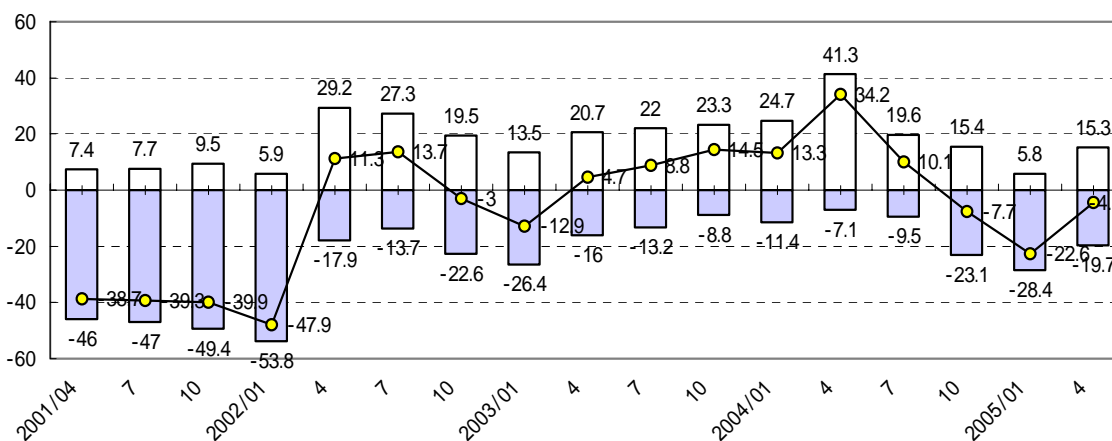
回答全社

グラフ - 1



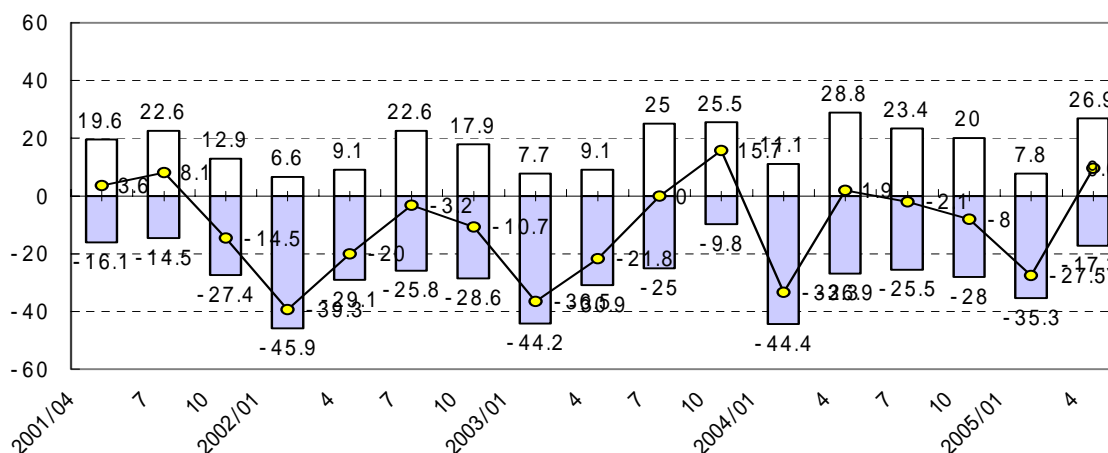
製造業

グラフ - 2



非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)

グラフ - 3



産業別景気動向

1. 製造業

製造業の業況判断DIは 4.5ポイントで前回（17年1月末調査）に続きマイナスとなった。業況判断は業種により区々となっており電機機械に業況が悪化したとする企業が増え輸送用機械、一般機械などに好転企業が増えている。

規模別では100人以上の企業に業況悪化とする企業が多く業況判断DIは 12.5ポイントとなっているが「3ヶ月後」の予想では18.8%の企業が業況が好転すると予想しており予想業況DIは12.5ポイントとなっている。

デジタル家電は大手メーカーの激しい競合が続き製品や機種により生産調整がみられ下請け企業の受注状況は区々となっている。自動車関連や産業機械など設備関連の企業は「好転」「横這」とする企業が多く高水準の生産が続いている。

地域企業は65.0%の企業が業況は「横這」としているが「好転」企業が15.3%で好転した企業が前回調査時より9.5%増加したものの「悪化」した企業が19.7%で、製造業全体としては幾分弱含みの足踏み状況がつづいている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表 - 2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	
製造業	157	15.3	65	19.7	-4.5	157	19.7	49.0	31.2	-11.5	157	15.3	70.1	14.6	0.6	
規 模	1～29人	73	15.1	65.8	19.2	-4.1	73	17.8	45.2	37.0	-19.2	73	13.7	65.8	20.5	-6.8
	30～99人	52	19.2	61.5	19.2	0.0	52	25.0	44.2	30.8	-5.8	52	15.4	73.1	11.5	3.8
	100～人	32	9.4	68.8	21.9	-12.5	32	15.6	65.6	18.8	-3.1	32	18.8	75.0	6.3	12.5
中 分 類	金属製品 製造業	21	23.8	47.6	28.6	-4.8	21	19.0	42.9	38.1	-19.0	21	14.3	71.4	14.3	0.0
	一般機械 器具製造業	42	21.4	61.9	16.7	4.8	42	28.6	50.0	21.4	7.1	42	9.5	76.2	14.3	-4.8
	電気機械 器具製造業	31	6.5	61.3	32.3	-25.8	31	0.0	54.8	45.2	-45.2	31	29.0	64.5	6.5	22.6
	輸送用機械 器具製造業	15	6.7	93.3	0.0	6.7	15	33.3	53.3	13.3	20.0	15	26.7	46.7	26.7	0.0
	精密機械 器具製造業	17	5.9	82.4	11.8	-5.9	17	5.9	52.9	41.2	-35.3	17	5.9	70.6	23.5	-17.6

諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

金属製品（プレス、メッキ、熱処理など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは 4.8ポイントとなっている。好転企業が23.8%見られるものの悪化した企業が28.6%で総体としては幾分悪化している。

「3ヶ月後」の予想業況DIは0.0ポイントで「横這」とみる企業が71.4%となっておりデジタル家電の動向から慎重な見方となっている。

一般機械（工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは 4.8ポイントで「好転」企業 21.4%となった。工作機械、専用機械は自動車関連機械や自動化・省力化設備は順調な生産を続けている。半導体や液晶関連設備の受注が減少しており「3ヶ月後」の予想業況DIは 4.8ポイントとなっている。

電気機械（家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど）

「3ヶ月前」と比べ業況が「悪化」した企業が 32.3%で、業況判断DIは 25.8ポイントとなった。業況悪化企業は前回調査時と同様に連続して多いが「3ヶ月後」の予想業況DIは 22.6ポイントと好転を予想する企業が多い。

輸送用機械（自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは 6.7ポイントで「好転」6.7%「横這」93.3%となっている。自動車の国内生産台数が 1000万台を維持しており発注コストの引き下げは厳しいものの総じて受注量は安定している。

精密機械（時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは 5.9ポイントとなっている。「横這」とする企業が 82.4%となっており生産状況は低調となっている。

他の製造業

業種により業況は区々となっており食料品、繊維工業、プラスチック工業など取引先により業況判断は区々となっている。

規模別業況

製造業の規模別業況判断DIは 1人～29人企業 4.1ポイント、30人～99人企業 0.0ポイント、100人以上企業 12.5ポイントで 100人以上企業に業況が「悪化」した企業が幾分多くみられる。「3ヶ月後」の業況の予想では規模の大きな企業に好転すると予測する企業が多くみられる。ヒヤリング調査からはデジタル家電業界の競争激化から地域大手企業の中には生産体制の再構築をはかる企業がみられる一方生産増加を図る企業など区々となっている。

業種別・規模別受注状況

製造業全社の受注状況は「3ヶ月前」と比べ増加企業 19.5%、減少企業 29.2%で受注状況DIは 9.7ポイントと3期連続してマイナスポイントになった。増加企業が増えているが総体としては受注環境の改善は弱く停滞感が窺える。

規模別の受注状況はいずれの規模も「不変」が一番多いものの受注状況DIは 100人以上企業の受注状況DIが 3.1ポイント、30人～99人企業 8.0ポイント、29人以下企業 13.9ポイントとなっている。29人以下企業では 31.9%が受注が減少しており「3ヶ月後」の予想でも31.9%が受注減少を予測しており小規模企業の受注確保の厳しさが窺える。

業種別では「3ヶ月前」と比べ受注状況DIは電気機械 32.3ポイント、精密機械 29.4ポイント、金属製品 9.5ポイントと3業種が受注減少となっているが、一般機械 2.4ポイント、輸送用機械 13.3ポイントと2業種は受注が増加しており業種により状況変化がみられる。

主要5業種の「3ヶ月後」の予想受注状況DIは 4.0ポイントで受注が増加するとみる企業が20.8%で幾分回復期待感がみられる

ヒヤリング調査では昨年夏から秋口をピークに受注が減少してきた電機機械に受注回復の気配が出てきた一方産業機械関連の受注は受注残を抱え生産活動は高水準を維持しているが今後については慎重な見方が窺え、光学関連の下請企業からは当面の受注回復は期待薄との見方が聞かれるなど停滞感が窺える。

業種別・規模別受注状況表

表 - 3

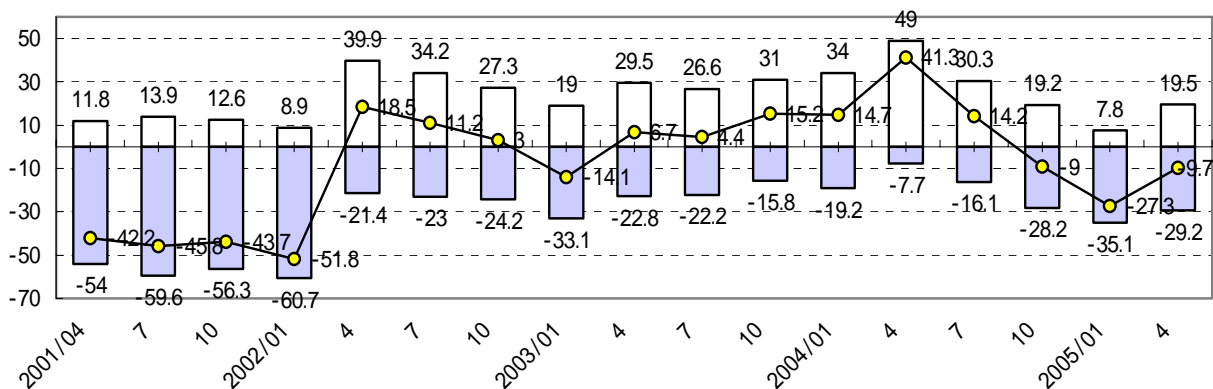
	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業数	増加	不変	減少	DI	回答企業数	増加	不変	減少	DI	回答企業数	増加	不変	減少	DI	
製造業	154	19.5	51.3	29.2	-9.7	156	26.3	32.1	41.7	-15.4	155	20.0	56.1	23.9	-3.9	
規模	1~29人	72	18.1	50.0	31.9	-13.9	72	20.8	34.7	44.4	-23.6	72	20.8	47.2	31.9	-11.1
	30~99人	50	20.0	52.0	28.0	-8.0	52	28.8	25.0	46.2	-17.3	51	17.6	58.8	23.5	-5.9
	100~人	32	21.9	53.1	25.0	-3.1	32	34.4	37.5	28.1	6.3	32	21.9	71.9	6.3	15.6
中分類	金属製品製造業	21	23.8	42.9	33.3	-9.5	21	19.0	19.0	61.9	-42.9	21	19.0	61.9	19.0	0.0
	一般機械器具製造業	41	29.3	43.9	26.8	2.4	41	34.1	34.1	31.7	2.4	42	9.5	64.3	26.2	-16.7
	電気機械器具製造業	31	9.7	48.4	41.9	-32.3	31	9.7	38.7	51.6	-41.9	31	32.3	51.6	16.1	16.1
	輸送用機械器具製造業	15	26.7	60.0	13.3	13.3	15	60.0	13.3	26.7	33.3	15	33.3	33.3	33.3	0.0
	精密機械器具製造業	17	5.9	58.8	35.3	-29.4	17	11.8	35.3	52.9	-41.2	16	18.8	43.8	37.5	-18.8

製造業全社の受注状況DIの推移

全社

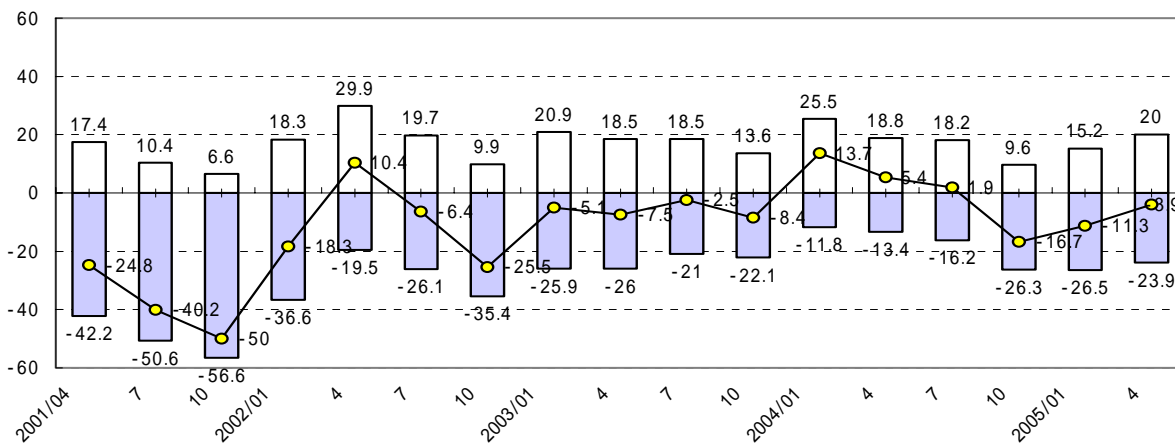
「3ヶ月前」と比べて

グラフ - 4



「3ヶ月後」の予想

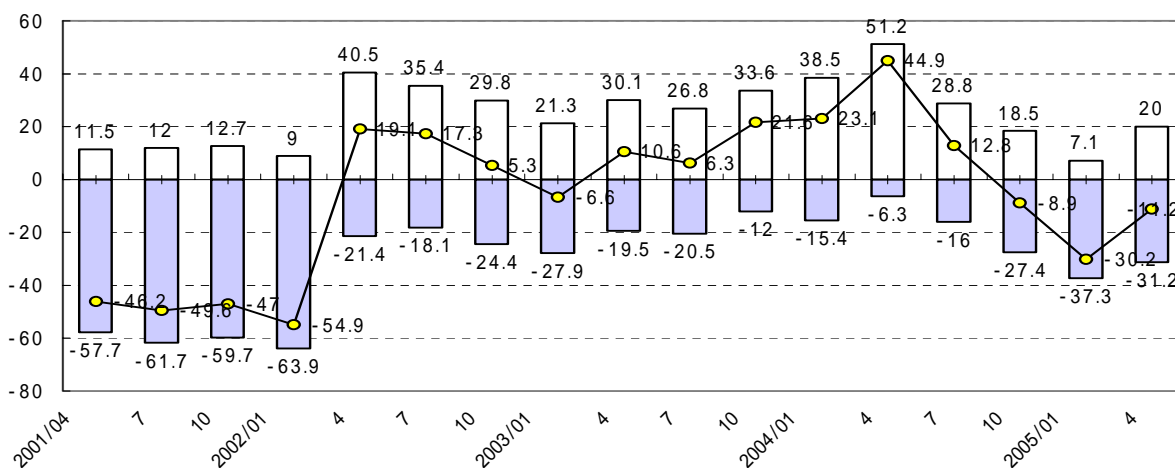
グラフ - 5



5業種の受注状況DIの推移

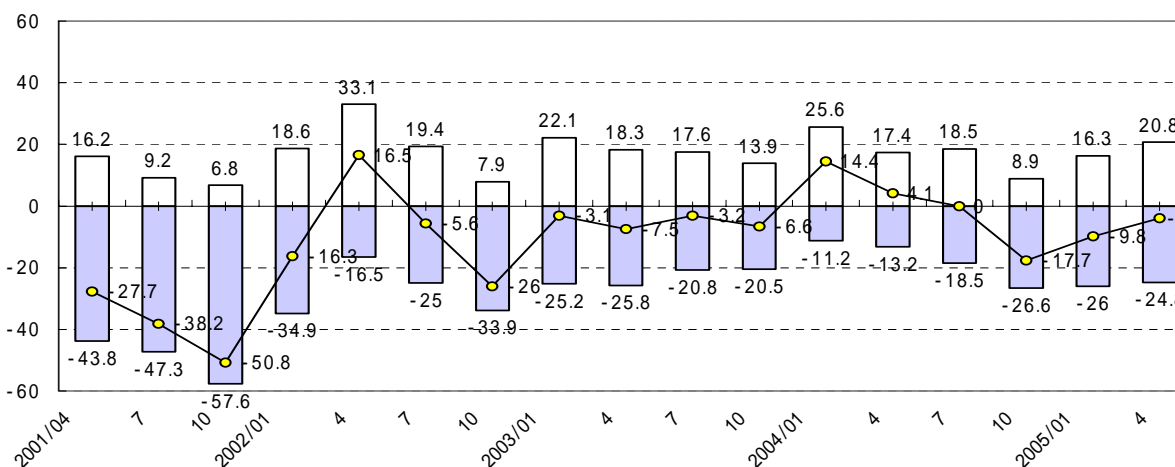
「3ヶ月前」と比べて

グラフ - 6



「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフ - 7

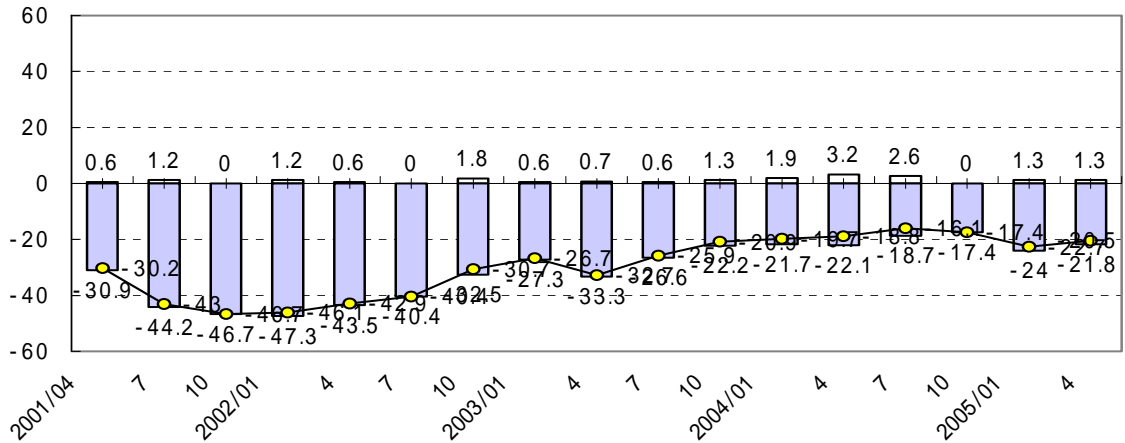


受注単価

業種、規模にかかわらず受注単価は低下しており、製造業全体の「3ヶ月前」と比べての受注単価DIは 20.5ポイントで厳しい状況が続いている。

受注単価DIの推移（「3ヶ月前」と比べて）

グラフ - 8



2. 商業・観光サービス業

商業

寒暖の差が大きかったものの好天が続き中旬以降気温が上がり春から初夏を思わせる気候となったことや「母の日」セールもあり扱い品目により区々ではあるが売上を伸ばした店舗が見られた。昨年は御柱特需があり前年対比では前年を下回った店舗が多い。

食料品、ホームセンター、大型家電店など含めた商業全体の「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは 12.5ポイントとなっているが商品単価が下がっており「3ヶ月前」と比べての客単価DIは 18.8ポイントとなった。ヒヤリング調査からは来店客一人当たりの購入点数が伸びないなど個人消費は慎重となっている。

食料品 行楽シーズンに入り惣菜や加工食品は順調な売れ行きをみせた。生鮮3品では野菜、果物や食肉など一時の低迷から回復したものの鮮魚はやや低調で総じて売上は伸び悩んでいる。

衣料品 婦人衣料品は気温の上昇から薄手の春物商品、UV カット商品や「母の日」のプレゼント品など順調な売れ行きをみせた。紳士衣料や子供衣料は幾分低調だった。

ホームセンター 需要期を迎え園芸資材やリフォーム資材など売れ行きは回復した。

大型家電店 新製品のパソコンの需要は旺盛で予約を含め販売台数は伸びた模様。薄型大型TVの売れ行きは横這い状況が続いているが他の家電商品の売れ行きは幾分低調となっている。御柱の前年対比では前年を割り込んでいる。

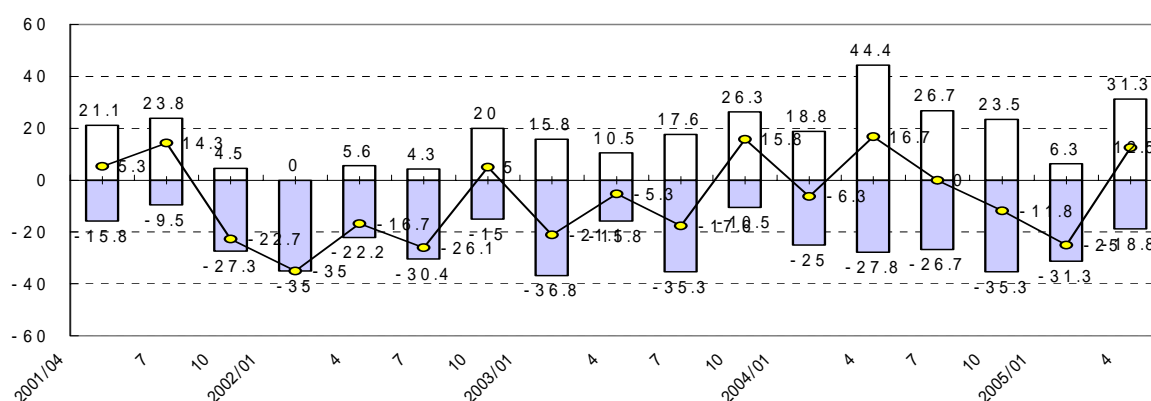
業況、客単価、来店客数

表 - 4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI
業 況	16	31.3	50.0	18.8	12.5	16	25.0	31.3	43.9	-18.8	16	31.3	56.3	12.5	18.8
客単価	16	12.5	56.3	31.3	-18.8	15	6.7	40.0	53.3	-46.7	16	18.8	56.3	25.0	-6.3
来店客数	16	18.8	56.3	25.0	-6.3	16	12.5	43.8	43.8	-31.3	16	18.8	62.5	18.8	0.0

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIの推移

グラフ - 9



観光・サービス業

春の行楽シーズンを迎え天候に恵まれたこともあり諏訪地域の観光地はそれぞれ賑わいをみせた。宿泊客は施設により区々となっているが「3ヶ月前」と比べての宿泊客数DIは 25.0ポイントとなった。大型連休前半の宿泊予約は順調なところが多くみられた。

白樺湖、蓼科、霧ヶ峰方面の宿泊客数は旅館により区々で総じては前年同期と横這い状況となっている。

上諏訪温泉、下諏訪温泉の宿泊客は御柱の昨年同期比では幾分減少しているが大型連休前半は満館のところも見られるなど月間を通して「3ヶ月前」比では増加した。湖畔の観光施設はそれぞれ賑わいを見せた。

諏訪地域全体の「3ヶ月前」比の宿泊客数DIは 25.0ポイント、「前年同期」と比べての宿泊客DIは 5.0ポイントとなっている。

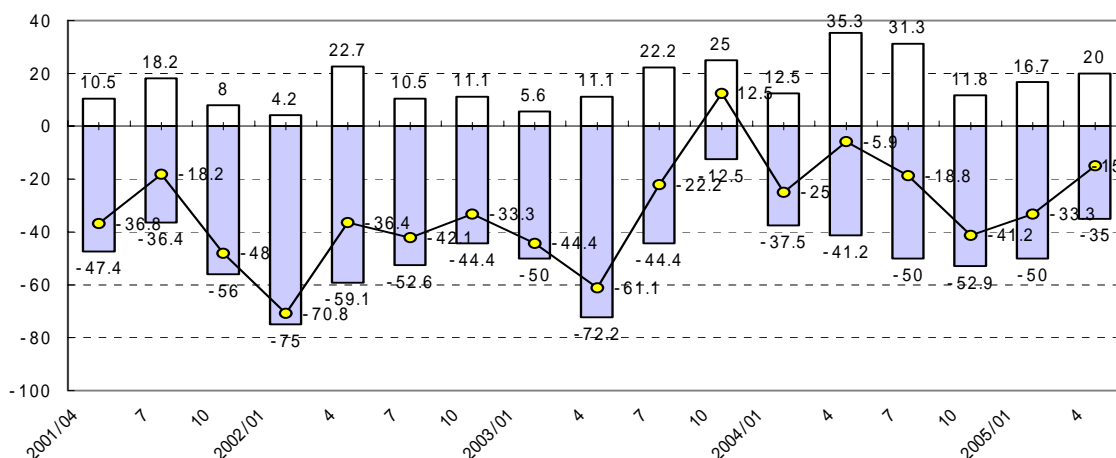
業況、売上、宿泊客

表 - 5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI
業 況	20	40.0	55.0	5.0	35.0	20	20.0	45.0	35.0	-15.0	19	57.9	36.8	5.3	52.6
客単価	20	15.0	70.0	15.0	0.0	20	5.0	55.0	40.0	-35.0	20	15.0	75.0	10.0	5.0
宿泊客数	20	45.0	35.0	20.0	25.0	20	25.0	45.0	30.0	-5.0	19	68.4	26.3	5.3	63.2

「前年同期」と比べての業況判断DIの推移

グラフ - 10



3. 建設業

年度の切り替え時期のため公共工事の発注は少なかった。新設住宅など建築工事は充足したとする事業所がみられるが土木工事は工事量が少なく建設業総体としては依然厳しい経営環境が続いている。

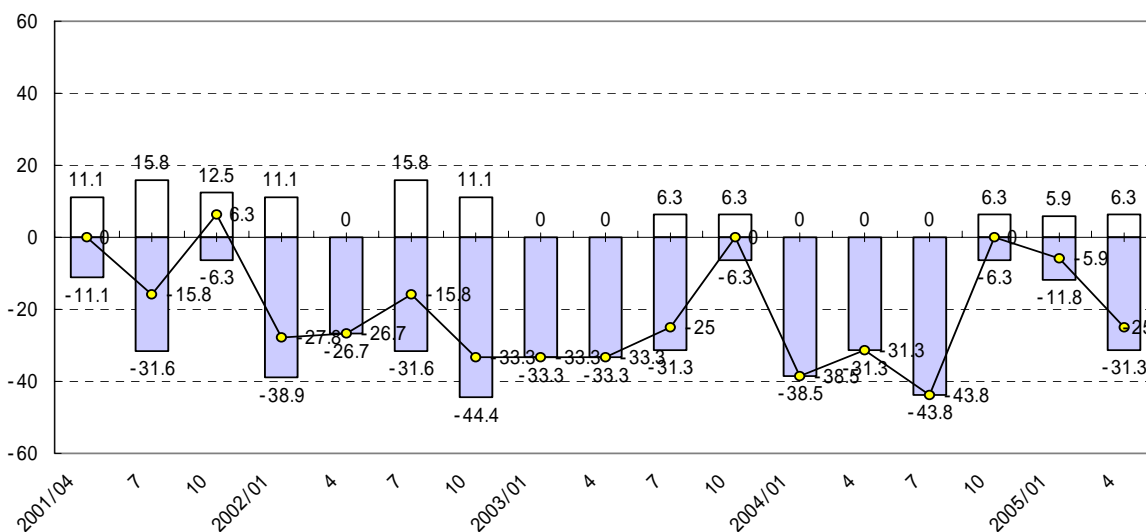
業況、受注状況、外注発注量

表 - 6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI
業 況	16	6.3	62.5	31.3	-25.0	16	12.5	37.5	50.0	-37.5	16	6.3	68.8	25.0	-18.8
受注状況	16	18.8	31.3	50.0	-31.3	16	25.0	18.8	56.3	-31.3	16	25.0	37.5	37.5	-12.5
外注発注量	16	18.8	37.5	43.8	-25.0	16	25.0	25.0	50.0	-25.0	15	26.7	46.7	26.7	0.0

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIの推移

グラフ - 11



4 収益性状況

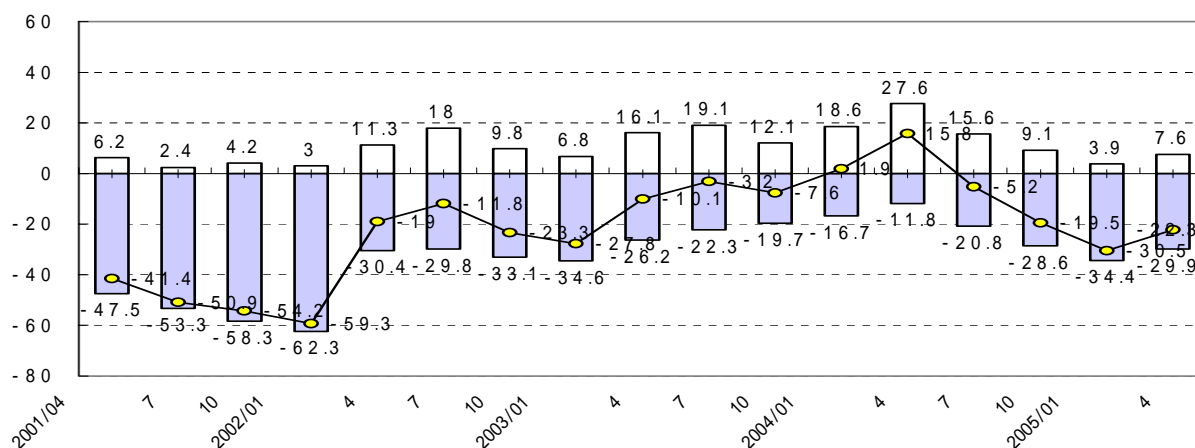
回答全社の「3ヶ月前」と比べての収益性DIは 19.6ポイントとなっている。

製造業は受注減と材料費のアップに加え発注単価の引き下げから「3ヶ月前」と比べ収益DIは 22.3ポイントで改善はみられない。非製造業の収益性DIは 11.5ポイントで第3次産業（商業、観光・サービス業）は春から初夏に向けての気温上昇や大型連休などから業況が回復しており収益性DIは 0.0ポイントとなった。建設業の収益性DIは 37.5ポイントで非製造業全体としての収益性DIは 11.5ポイントとなっている。

「3ヶ月前」と比べての収益性DIの推移

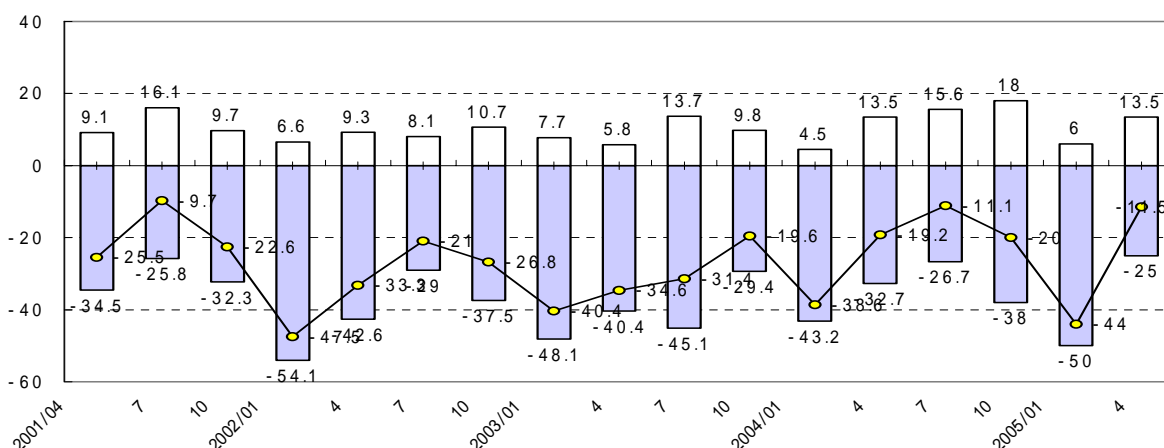
製造業

グラフ - 1 2



非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）

グラフ - 1 3



経営上の課題

経営上の課題として、製造業は売上減少、受注単価引下げ、競争激化をあげる企業が多く、商業は売上減少、人件費、建設業は競争激化、観光・サービス業は売上減少をあげている。

その他課題として、製造業では原材料の高騰・入手困難、人材（技術者）確保をあげる企業が多い。商業では大型店進出による競争激化をあげている。

経営上の課題

	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	95	66	7	10	12
単価引下げ	67	53	2	4	8
競争激化	63	39	7	13	4
資金繰り	36	22	1	5	8
人件費	34	20	6	1	7
労働力確保	31	24	3	0	4

1. 調査期間 平成17年4月末
2. 調査内容 「平成17年4月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後の予想」
3. 調査方法 アンケート調査及びヒヤリング調査
4. 対象地域 諏訪地域全域
5. 業種 製造業、商業（大型店 売り場面積501㎡以上）、建設業、観光・サービス業
6. 回答企業数 209企業 回答率 63.3%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	250	35	22	23	330
回答数	157	16	16	20	209

諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【3月】	諏訪公共職業安定所管内	1.27 倍	0.04 ポイント	
	岡谷公共職業安定所管内	1.22 倍	0.03 ポイント	
手形交換高【4月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	11,035 枚	4,271 枚	
	金額	13,070 百万円	7,106 百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	0 枚	6 枚
	金額	0 千円	25,042 千円	
車庫証明取扱件数【4月】 (諏訪・岡谷自家用自動車協会管内)		1,315 件	14.8 %	
新設住宅着工件数(16.4~17.3月) (諏訪地方事務所管内)		1,963 件	6.7 %	